

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	田場 聡		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	植物病理学実験(選択必修)では実験方法の把握だけでなく、デモンストレーションを行うとともにパワーポイントなどを用いて項目別に解説し理解を深めさせる。植物病理学概論、土壤微生物学(選択必修)および植物線虫学(選択)では最新のデータについて写真や動画で紹介し、当該研究分野に対する興味と理解を高める。英語文献講読Ⅰ・Ⅱでは時事的な英文や英語論文を用いて授業を行う。植物病理学特論では、亜熱帯性病害について各病原体の最新の診断および防除法を題材に議論し、実学的な研究について考察する。熱帯植物病理学特論では、様々な植物病害を課題としてゼミ形式で授業を行い、当該分野の専門的知識を深めさせる。植物病理学研究室の学生に対しては論理的思考能力およびプレゼン能力の開発を目的としたゼミナールを週1回(2人)行う。		0.30	植物病理学概論および植物病理学実験ではパワーポイントにより写真や図を駆使して解説した結果、学生の理解が深まった。植物線虫学および土壤微生物学では動画およびDVD等を用いたことで当該分野に対する学生の興味を向上できた。また理解度を高めるためレポートや小テストを課した結果、成績が向上した。英語文献講読Ⅰ・Ⅱではニュース英語(科学)や英語論文を教材に用いたため学習意欲と英語の学力を向上できた。また関連内容に関する情報収集により自然科学関連の情報量が向上した。研究室ゼミでは論文を講読してパワーポイントで発表後、ディスカッションを行い、学部3年次から修士課程の学生を含む計6名の論理的な考察力と自己アピールの向上を実現できた。植物病理学特論では、果樹病害と線虫病について実学的な内容(検定法や防除法)の講義により応用研究の重要性が理解できた。熱帯植物病理学特論では、各専門分野の学生に対して自己テーマに関連する植物病理学分野の課題を与え問題意識を持って課題に取り組む自発性と解決力の向上に寄与できた。
研究	0.35	論文(和文または英文)を投稿し受理を目指す。日本植物病理学会、日本菌学会、沖縄農業研究会などにおいて発表を行う。これまで競争的資金などで採択された研究課題や特許を発展させ、外部資金を獲得し、関連企業との共同研究をさらに推進することで実社会に応用できる技術の研究開発に努める。外部資金については、今年度が2年目となる「戦略的イノベーション創出プログラム(次世代農林水産業創出技術)」(約2千万円/5年)において参加企業等とともに実装化に向けたさらなる取り組みを行う。		0.35	論文「Dry rot of pitahaya caused by <i>Neoscytalidium dimidiatum</i> in Japan」をJournal of general plant pathologyに投稿予定である。日本植物病理学会において1件講演発表を行った。特許アウキセンダングサによる有害線虫の防除法の企業へのライセンスを行っている他、契約料として約5百万円の収入があった。現在、県外企業2社と共同研究を行っている他、県内企業1社と秘密保持契約を結び線虫防除剤の強化に関する共同研究を推進している。また県外企業1社から技術相談があり、植物由来天然成分を組み入れた総合的防除に関する研究を行う予定である。外部資金については「戦略的イノベーション創出プログラム(次世代農林水産業創出技術)」に採択され2年目の研究を推進中である。本成果については具体的な社会実装(販売可能な農業資材開発)が期待できると高い評価を受けている。
社会貢献	0.15	セミナーや研究会等において積極的に参加・発言し、県内で行われる病害虫関連の研究や産官学連携推進に尽力する。国内で開催される講演会などで講演を行う。		0.15	沖縄TLO主催のウコン青枯病蔓延防止プロジェクトの副委員長を務め、青枯病に関する、発生生態や防除に関する情報について発言を行い、パンフレットの作成にも尽力した。また「土壌施肥」に線虫防除に関する記事が掲載され、最新農業技術として農家や研究者に対して情報提供ができた。
管理運営	0.10	産学連携推進機構副機構長(全学)、教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会(全学)、組織見直し具体化タスクフォース委員(全学)、自己評価・外部評価・認証評価ワーキングチーム(学部)、環境・交通・施設等委員会(学部)として全学および学内委員会に積極的に参加する。		0.10	出張や授業などにより完全な出席はできていないが、90%以上の出席率で貢献を行った。特に産学連携推進機構の会議では、他組織や他学部の委員が集う連絡会や決定機関である運営委員会などで積極的に発言を行った。学部レベルでは主に法人評価委員として尽力し、大学及び学部運営に寄与した。
進路指導	0.10	学生の積極的な学会参加を促し、修士および博士課程への進学率を高める。また就職の場合は、生物系および農学系関連企業の紹介などに積極的に取り組む。		0.10	修士学生1名が植物病理学会において講演発表を行った。積極的に修士課程への進学を促した結果、現3年次2名が修士課程に進学を希望している。就職関連では4年次1名が民間企業に採用が決定した。2年時のコース分けでは今後の進路を考慮し希望コースを決定するよう指導し、ほぼ条件内での分属ができた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		諏訪竜一	所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズに見合う知識を有することのできる講義を行う ・講義分野を学生のみならず、一般公開できるよう取り組む。 ・農作物を自ら作り、食し、食事に対する理解を深める教育を行う。 ・理解しやすくなおかつ深みのある講義を行う。 		0.30	作物学、エネルギー作物の一般公開講義への設定を行い、作物学2名エネルギー作物学1名の社会人の方に対して講義を行った。実験講義においては各種作物の栽培を行い、農業実践も合わせた教育を行った。	
研究	0.30	大宜味村圃場で継続中の酸性土壌耕作放棄地の精油および木材採取のための産業植林に向けた研究を継続して推進する。 他組織などと共同で研究を行い、相互のレベルアップに努める		0.30	大宜味村圃場の研究は継続して調査を行っている。また、本研究成果について内閣府沖縄総合事務局主催の薬用作物講演会において発表を行い、役場や企業から栽培の依頼があり、これに対応し、普及に努めている。	
社会 貢献	0.15	地域とともに、沖縄県の産業に貢献する研究を行う。		0.15	在来ダイズを中心とした地域に適応した作物の研究を行い、複数の市町村の役場および企業からの依頼を受け、これの栽培方法の研究を行った。また継続して来年度も研究を行う。その他、複数の講演を依頼されこれを行った。	
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長等の管理職の加重な負担を軽減するため、できることは協力し学科の動きを軽敏にし、研究活動の活発化に努める ・分担している各種委員会の活動を行う。 		0.15	可能なことについて協力を行った。 各種委員会の参加および役割を担当した。	
その他	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次指導教員として適宜対応する。 		0.10	本年度年次指導懇談会など、適宜質問等に対する対応を行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		井上 章二	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	<p>学部においては前学期:森林水文学、森林環境学、外国文献講読Ⅰ、および卒業論文Ⅰなど、後学期:森林土木学、森林工学演習実習、流域・森林保全学、森林科学実習、森林測量学、森林測量学実習、卒業論文Ⅱなど、研究科においては森林環境工学特論、亜熱帯農学特別演習等の授業をシラバスに則って行う。それぞれの科目において、前年度の学生の意見や自らの反省を活かした授業の改善を心掛ける。大学院国際農学プログラムにおいてはスムーズかつ効果的に実施できるようコーディネートを行う。また、連大関連では、3年次社会人学生1名の主指導教員として、他1名の学生の副指導教員として学位取得に向けて指導を行う。研究室の院生、学生に対しては週1~2回のゼミを確保し、修士学生3名、卒論学生2名を研究室准教授と協力して指導する。また、研究室の学生に限らずキャリア支援を行い、種々の相談に対応する等、学生支援を積極的に行う。</p>		0.25	<p>学部、研究科すべての授業に対し、共同担当者がいる場合は協力してシラバス通りの実施に努め、昨年度の授業評価の意見を反映させるなど全力投入したが、管理運営にかなりの時間を要し、一部行き届かなかった面もあると思われる(特に後学期)。しかし、休講も最低限であり、及第点であると自己採点できる。大学院国際農学プログラムもかなり充実したものとなった。連大学生1名の主指導教員として学位論文提出には至らなかったが、学会誌に論文投稿させた。研究室ゼミも週最低1回は確保し、研究室在籍学生の修論、卒論を指導した。</p>
研究	0.15	<p>東日本大震災を受けて海岸線の防災・減災機能に関する研究を引き続き行い、その研究成果を国内外のレフリー付き学術誌に投稿し採択を目指す。日本海岸林学会、日本雨水資源化システム学会での研究発表を目指す。</p>		0.10	<p>今年度は、研究に投入できる時間があまり取れず、予定していた論文投稿はできなかったが、連大学生との共著論文を日本木材保存協会に投稿した。</p>
社会貢献	0.15	<p>日本雨水資源化システム学会理事、日本海岸林学会評議員の責務を引き続き果たす。内閣府沖縄総合事務局開発建設部における入札監視委員会委員として適切な入札が行われるよう尽力するとともに、沖縄県森林緑地課および森林資源研究センターのみならず沖縄県、西原町との連携にも力を入れ、社会貢献に務める。</p>		0.15	<p>雨水資源化システム学会の理事として、学会運営の責任を果たした。日本海岸林学会の役員としても責務を果たした。また、沖縄総合事務局の入札監視委員会委員長としての職責を果たした。沖縄県との連携推進については、学科長主導で具体化の緒についた。</p>
管理運営	0.40	<p>学部長として農学部の円滑な管理・運営に努めるとともに、琉球大学のさらなる発展に向けて尽力する。農学部では、教授会、代議会、将来計画委員会、人事委員会等の議長としての責務を果たし、全学的には、企画経営戦略会議、教育研究評議会、全学教員人事委員会、大学院委員会、入学試験管理委員会等の委員としての責務を果たす。</p>		0.50	<p>学部長就任初年度として全力を投じて学部運営にあたったが、戸惑うことも多く、必ずしも成果が上がったとは言えないかもしれない。各種全学委員会委員としての職責は果たした。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		ラザフィンラベ バム	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
			職 名		准教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.43	<p>学部においてはリモートセンシング概論、リモートセンシング実習を担当し、流域・森林保全学、森林工学演習実習、森林測量学、森林測量学実習(分担)など、大学院においては森林環境保全学特論等の授業をシラバスに則って行う。また、研究室の学生、院生、研究生には週1~2回のゼミを実施する。</p> <p>国際的な研究、あるいは海外で就職の希望ある学生、院生にいろいろなアドバイスをを行う。また、研究室の専攻生のみならずその他相談に訪れた学生に対し、より具体的な就職や進学に対するアドバイスをを行う。</p>		0.44	<p>予定通り、学部においてはリモートセンシング概論、リモートセンシング実習を担当し、流域・森林保全学、森林工学演習実習、森林測量学、森林測量学実習(分担)、それに、大学院においては森林環境保全学特論等の授業をシラバスに則って行った。また、研究室の学生や院生には週1回のゼミを行った。卒業論文の準備や、リハーサルなどのゼミは適切に行った。</p> <p>また、琉球大学農学部における国際農学プログラムで、平成27年度の農学研究科の院生のセミナーやインターンシップの準備などの指導をした。そして、国内外への就職の希望ある学生に就職・進学に対するアドバイスを行った。完全に参加するという学生の人数は今のところはまだ決まっていない。</p>
研究	0.48	<p>洪水リスクとレジリエンスなどの研究はフィリピン大学ロスバニオス交と継続する。研究分担者として、「獣害と管理放棄リスク軽減に向けた時空間的シミュレーションモデルの構築」科研費プロジェクトのデータ収集や分析などをする。また、統計数理研究所との共同研究で、マダガスカル中東部の環境リスクと災害リスクマネジメントの研究も継続する。</p>		0.47	<p>継続しているフィリピン大学ロスバニオス交とアテネオでナガ大学で、洪水リスクとレジリエンスなどの研究は続いている。成果として、平成27年度2015年12月にレフェリー付国際雑誌に出版した(Journal of Economics, Management & Agricultural Development, 2015,1,(2)53-68)。また、研究分担者として、「獣害と管理放棄リスク軽減に向けた時空間的シミュレーションモデルの構築」科研費プロジェクトのデータ収集や分析などを行った。そのために、GISを用いて、地図作りにも積極的に参加した。最後に、統計数理研究所との共同研究で、マダガスカル中東部の環境リスクと災害リスクマネジメントの研究のために、現地に行って、調査やアンケート・聞き取りなどを行った。他のメンバーのインプットも結合し、国際雑誌に出版する予定。</p>
社会貢献	0.05	<p>環境リスクと災害リスクマネジメントの研究成果を国際ワークショップやミーティングなどで発表し、論文も、レフェリー付国際雑誌に提出する予定。琉球大学農学部における国際農学プログラムのコーディネーションやセミナー等を通じて、国際貢献をする。</p>		0.05	<p>予定通り、環境リスクと災害リスクマネジメントの研究成果を国際学会で発表した(フィリピンのアテネオでナガ大学にて、2015年12月)。また、コーディネーターとして、琉球大学農学部における国際農学プログラムに積極的にリードした。そこで、メンバーの外国の四つの大学の教職員との調整をしながら、琉球大学農学研究科の院生のインターンシップなどの調整をし、現地での指導も行った。それに、琉球大学で、国際農学プログラムの27年度の国際農学プログラムウインターコースの計画、実践、コーディネーションも行った。日本の社会だけでなく、国際農学プログラムの活動など通じて、海外での貢献もした。</p>
管理運営	0.04	<p>学部教授会、学科会議に出て、学部で行う事業に力を入れ、管理運営に努める。委員会や入試関連業務にも貢献する。</p>		0.04	<p>定期的に学部教授会や学科会議に出て、学部で、センター試験や入学試験などの事業に力を入れ、管理運営に努めることを行った。また、委員会や入試(センター試験と二次入学試験)関連業務にも貢献した。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		辻瑞樹		所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	学生の授業目標の達成率向上を目指す。指導する大学院生には論文を投稿させ、学会等で発表させる。研究室配属済みの学生には心身面でのケアが必要な学生がいることが既知であるため、とくに注意する。関連職種の実務経験者のセミナーなどを開き、学生と面談させるなどの機会を積極的に与え、就学意欲を高める。卒業生全員の就職先・進学先が3月修了時に決まっていればなお良い。				0.25	授業は昨年までの評価を参考に教材の改訂を図った。大学院生全員に学会発表をさせたが、論文投稿は昨年春に修士を修了した学生1人に留まった。研究室に不登校者が複数現れ、本年度はそれら学生の心身ケアにかなりの注意と労力を割いた、様々な問題はあったものの現在全ての指導生は登校中である。残念ながら研究室配属学生全員の就職・進学内定には至らなかった。5人が大学院進学を決めた一方で2人が本人の意思で卒業遅延になった。				
研究	0.30	論文2報以上の国際的著名誌への受理を目指す。採択された学長リーダーシッププロジェクトを鋭意遂行する。科研費基盤研究の新規採択を目指す。JSPSのその他の競争的資金(拠点形成事業、新学術領域など)への応募または応募準備を進める。				0.25	Current Biology(IF9.5), と J. Exp. Biol.(IF2.8)に論文を発表した。学長リーダーシッププロジェクトも順調に進んでおり成果を春の学会で発表する。新規の科研費はともに代表者として基盤(A)海外と基盤(B)一般に採択された。JSPSの拠点形成は応募も不採択、新学術(計画班)は現在応募中である。その他、2つの会議で英語の招待講演を行った。				
社会 貢献	0.30	日本学術会議に連携会員として各種委員会に出席、各種企画等に参加する。沖縄県自然環境保全審議会の委員として各種審議に参加する。JSPS, JST等で専門知識に関する情報提供が求められればできる範囲で応える(SSHの委員として指導を担当する等)。各種学会では継続中の委員(生態学会将来計画委員長, ER誌副編集長, BiologyLetters編集委員など)を努める。大学生向け教科書の編集(2シリーズ)を行う。				0.30	学術会議では行動生物学分科会委員長に任命され活動を行った。沖縄県では環境影響評価委員に加え、外来生物の侵入防止に関する条例制定と運営に協力し県議会で参考人発言もした。JSPSでも審査等を行った。各種学会での役員業務を行った。編集した教科書も2冊が刊行された。ただし年末以降は健康問題のため学外の会議は欠席気味である。				
管理 運営	0.20	名称が琉球大学博物館に変更された風樹館館長としてとくに同施設の外部広報活動につとめる。農学部の各種委員の職責を全うする。全学の研究推進会議委員としての職務を全うする。				0.20	風樹館の運営に関しては、外部広報活動も実リビオトップが日本生態系協会会長賞を受賞した。健康問題はあるが風樹館と農学部の各種委員の職責を全う出来たと思う。全学の研究推進会議委員会の会議も一度も欠席しなかった。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鬼頭 誠	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	学部担当科目(前期: 土壌肥科学実験、外国文献講読、卒業論文Ⅰ、後期: 食料生産と環境、熱帯肥培管理論、環境化学実験、卒業論文Ⅱ)を担当し、学部・学科の理念に基づいた講義を行う。大学院担当科目(植物生理生態学特論、特別演習、特別研究)についても研究科・専攻の理念に基づいた講義を行う。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当する。また、学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時などに進路指導上の情報収集に努める。			0.35	目標に記載した学部担当科目を学部・学科の理念に基づいた講義を行った。大学院担当科目についても目標に記載した科目について研究科・専攻の理念に基づいた講義を行った。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当した。また、学生の希望進路に沿ったインターンシップ先の手配をし、学会等の出張時などに得た進路指導上の情報を基に助言を行った。		
研究	0.30	学部及び修士学生と共に研究成果を全国規模の学会で2つ以上発表する。研究論文を連大基準のジャーナルに1編以上投稿して採択を目指す。前年度より採択された科研費の課題を確実に達成するとともに、別課題の外部資金獲得に努力する。さらに、学内外の関連研究機関等との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.30	外部資金として科研費の獲得し、学内外の関連研究機関等との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努めた。関連学会において2題の発表と連大基準の国際誌に1編の論文を投稿した。		
社会 貢献	0.25	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努める。学内外の関連研究機関等との共同研究の成果を応用し、沖縄および熱帯・亜熱帯地域の社会貢献を行う。また、県内外の高校等への出前講座を実施に向け高校関係者との意見交換等の積極的に行う。			0.25	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努めた他、他機関の評価者として申請課題の評価を行った。また、一般公開授業を開講し、6名の受講生の受け入れと教員講習授業を開講した。高大連携事業として中部農林高等学校で出前授業を行った。		
管理 運営	0.10	全学の研究推進機構委員、研究費む・研究活動不正防止委員会委員、IR室委員として教育・研究に対する運営に協力する。また、学部各委員会委員として学部運営に協力する。			0.10	全学のIR室委員として教育・研究に対する運営に協力した。また、学部各委員会委員として学部運営に協力した。特に、現況調査表・研究のワーキンググループの一員として農学部の6年間の業績の取りまとめ作業と現況調査表の執筆を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		金城 和俊		所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行う。また共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について理解させる。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行う。		0.35	学部科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験、フィールド実習)、大学院科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念にもとづき、専門知識等を十分に理解させることに重点をおいて講義を行った。また共通教育科目の情報科学演習ではWeb情報のインプットとアウトプットについて講義及び演習を行った。		
研究	0.35	2015年度日本土壌肥料学会全国大会と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行う。研究成果は約1報を投稿し、年度内の受理採択を目指す。また他分野の研究者と共同研究も積極的に行う。また、外部資金獲得のために、科研費や財団の研究助成への応募を積極的に行う。		0.35	日本土壌肥料学会九州支部例会、日本土壌肥料学会京都大会の両大会にて研究発表を行った。研究成果は、熱帯農業研究に研究論文が1報が受理された。さらに、学会にて研究発表とは別に研究の話題提供の講演も複数行った。		
社会 貢献	0.10	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事を全うする。		0.10	沖縄市経営・生産対策推進会議委員会と高校への公開講座を行った。さらに多数の農家および民間業者からの相談依頼を受け、依頼分析や共同研究などに繋いだ。		
管理 運営	0.10	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事を全うする。		0.10	全学の委員会は、学生生活委員、機器選定WGに選任され、それぞれの委員会にて大学の管理運営に務めた。学部委員としては、安全衛生委員、農学部改修WGなどに選任され、それぞれの委員会にて大学の管理運営に務めた。		
進路 指導	0.10	学生の希望進路に関する相談を常に受け、その都度、情報提供を行い、学生の就職支援を怠らない。また関連企業に学生の就職に関する相談を行う。		0.10	学生の進路相談を受け、適切に対応した。適時、就職に関する情報提供した。また、推薦書を作成し、履歴書や面接の指導などを行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		建本 秀樹		所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
				職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	近年取り組んでいる対話型講義スタイルにより学生の理解力の向上が図られていると、昨年度の期末試験の結果や授業評価アンケートの高評価等から推察された。したがって、今年度も対話型講義スタイルに加えて、学生の学習に対する向上心を刺激するよう心掛ける。また、研究室でのゼミでは、学生の研究に対する探究心、ならびに科学英語論文の読解力を鍛え、卒論・修論研究に生かせるような実践的な教育を研究倫理を踏まえ上で実施する。さらに、研究室に配属されている学生には進路指導を積極的に行うと共に、4年次に対しては大学院への進学指導も行い大学院への進学率向上にも貢献したい。一方、1年次生の年次指導教員として他の年次指導教員と協力して、1年次学生の生活・学習・進路指導を確実に行う。		0.30	学生に対して問題を提議しながら進めていく講義スタイルにより、学生参加型の有意義な講義が実施できた。その結果、学生による授業評価アンケートにより、前学期に担当している「動物生殖制御学」の講義が最優秀講義に選ばれ公開授業を行った。さらに、後学期の他の先生による最優秀講義も拝聴し、一層の講義の質の向上を試みている。また、ゼミにおいては、学生の英文読解力向上に重点を置き実施した。また、後学期から3年次生に対して簡単な研究を体験して研究の楽しさを体感できるようにした結果、既に2～3名の学生が大学院への進学を希望している。	
研究	0.40	国際学術雑誌等への2報以上の研究論文の採択と共に、関連学会での1演題以上の学術発表を目指す。また、平成24年度からの科研費(琉球在来豚アグー精子における精漿成分による耐凍能低下の生理学的解明)に関する研究を継続して遂行する。さらに、関連機関との共同研究を継続し、地域に貢献できる研究成果の達成に努める。なお、一昨年度から継続している日本養豚学会評議委員の任を果たす。		0.40	学術雑誌への1報の英文による学術論文が掲載され、学会での1演題の学術発表も行った。一方、平成24年度からの科研費を継続し、沖縄在来豚アグー精子の凍結保存に関する研究を実施した。また、日本養豚学会評議委員の任を果たすと共に、外国学術誌からの論文査読審査(1報)等を行った。そして、来年度に向けて科研費の基盤研究(C)を申請した。	
社会 貢献	0.10	沖縄県が主催している「沖縄県あぐーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し、今後の沖縄県養豚産業の活性化を図る。また、関連企業や県内高校からの問い合わせ等に積極的に応じ、要望があれば出前講座等を実施したい。さらに、「アグー保存会」との連携をさらに深め、純粋系アグーの系統保護に学術的ならびに技術的な両面から貢献する。		0.20	沖縄県の「おきなわアグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し、今後のアグーを活用したブランド豚事業に関して積極的な発言を行った。また、9月にはJAおきなわ主催の「JAあぐー～銘柄豚推進大会」で特別講演を依頼され、講演後には60名の沖縄県のJAあぐー～ブランド生産者との交流を通して、今後の沖縄県養豚業の発展に対して協力していく方向性を確認した。さらに、1月には中部農林高校において20名の高校生に対して出前講義を行った。	
管理 運営	0.10	学部の入試委員とエコアクション21ユニット実施責任者、さらには全学の危機管理委員等の各種委員会活動に積極的に参加すると共に、学科会議や教授会等の会議への出席率を80%以上にする。そして、学科や学部の運営に貢献する。		0.10	今年度は、学科会議、学部教授会および研究科委員会に90%以上の割合で出席し、担当した各種委員会では積極的に発言を行った。また、入試委員会では大学院入試の改革等を積極的に行い十分に責務を果たせたと思う。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金野 俊洋	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.50	動物の生命活動を理解する基礎となる生体機構について、マクロ解剖学から分子生物学に至る幅広い知識を伝えるとともに、時代に即した解剖学実習のための環境整備を行う。			0.50	動物の生物学の基礎となる生体機構について学生の理解を深めることができるよう講義内容の改善に取り組んだ。解剖学実習の内容に昨年度更新した設備を利用し組織学実習を取り入れ、内容の充実を図った。		
研究	0.30	哺乳類の胚盤胞活性化の機序に関する研究(基盤研究C)に取り組むとともに、外部資金獲得に向けた研究室の環境・体制整備を行う。			0.30	競争的研究費(基盤研究C)を獲得し、哺乳類の胚着床に関する研究を推進した。また、熱生研との連携により学内予算を獲得し、妊娠における免疫細胞の役割についての研究プロジェクトを開始した。		
社会貢献	0.10	県内の他研究機関との連携に向けて広く交流を行い、沖縄県における研究ニーズを探索する。			0.10	妊娠免疫シンポジウムを主催(H26.3.4予定)し、研究者間の交流を図るとともに研究成果を地域に公開した。		
管理運営	0.10	動物実験委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全主任、将来計画委員として、大学、学部の管理運営に尽力する。			0.10	動物実験委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全主任、将来計画委員としての責務を遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			